

日大豊山水泳部の軌跡 12

平成 13(2001)年、熊本のインターハイで活躍したのは柴田隆一氏である。

100m・200m バタフライで優勝、200m は大会新記録を樹立した。



柴田氏は中学時代はそれほどの実績がある選手ではなく、高校での練習によく努力し、大きな成果を上げた。

その努力は大学卒業後に実り、平成 18(2006)年・19(2007)年の日本選手権では 100・200m バタフライで優勝した。

平成 18(2006)年、ドーハで開催されたアジア大会では 200m バタフライで第 3 位に入賞した。

平成 17(2005)年のモントリオール、平成 19(2007)年のメルボルンで開催された世界選手権にも出場している。

そして悲願であった平成 20(2008)年の北京オリンピックの代表選手になり、200m バタフライで第 9 位という成果を収めた。

柴田氏は身体がそれほど大きいわけでもなく、特別に優れた能力を備えているという選手でもない。

人より優れている点は、他人の何倍もの努力を継続するという気持ちの強さである。

それほど優れた能力を持っていなくても、努力次第ではオリンピックの代表選手になる可能性のあることを教えてくれた選手であった。